



京都大学

RDM Drive

RDM: Research Data Management

正式サービス開始！

RDM Drive

とは？

- 研究データを保存・共有するためのオンラインストレージサービス
- 学外共同研究者や学生ともデータ共有が可能
- 学内に設置したデータサーバを利用

2025年度は利用料金無料です。この機会にぜひお試しください。

*本サービスの利用には2026年度より利用負担金が必要となります。

サービスの特徴や申請方法は中面へ [→](#)

RDM Drive の特徴

特徴 1

研究プロジェクトごとに データ管理

研究室単位や個人単位でも利用可能です*1

特徴 2

柔軟な容量プラン

2TBから20TBまで、段階的なプランを用意しています*2

特徴 3

学内で サポート体制構築

困った時には学内スタッフがサポートします*3

特徴 4

SPS/ECS-IDで メンバー管理

学内者は新たなアカウントを管理する必要はありません

特徴 5

2026年度には学術情報リポジトリKURENAIと連携予定
データ公開がさらにスムーズに！



*1：1TBあたり最大5名が利用可能です。詳細は利用区分表をご覧ください。 *2：20TB以上の容量が必要な場合はご相談ください。 *3：サポートは職員の勤務時間帯に限りです。

利用区分と利用負担金

利用区分	利用メンバー数上限	利用負担金
RDM Drive 2TB	10名	2025年度は無料 ストレージシステムの稼働には電気代など様々な費用がかかるため、本サービスの利用には2026年度より負担金が必要となります。調整中ですが、目安として2TBでおおよそ12,000円/年を想定しています。 負担金は学内の主だった財源で支払可能 運営費交付金／受託研究費、寄付金等／科学研究費補助金等
RDM Drive 5TB	25名	
RDM Drive 10TB	50名	
RDM Drive 20TB	100名	

RDM Driveに保存する研究データの管理主体

京都大学では、研究データを収集または生成した研究者が、研究データ管理を行う権利と責務を有しています。RDM Driveに保存したデータについても同様です。

データの保全

データは複数のストレージノードに分散・冗長化して保存されており、無停電装置や発電機による電源対策も講じられています。ただし、遠隔地へのバックアップは行っていないため、大規模障害や天災などによりデータが消失する可能性を完全に排除することはできません。重要なデータは各自でバックアップを行ってください。

注意事項

- ・年度をまたいで継続利用される場合は、毎年度の継続申請が必要です。
- ・安定稼働のために月1回1時間程度のサービス停止を伴うメンテナンスを行います。
- ・本サービスはメンバー間のファイル共有を目的としており、共有用のURLは永続的ではありません。データ公開を目的とする場合はKURENAIをご利用ください。

研究データ管理(RDM)とは

研究データ管理(Research Data Management, RDM)とは、学術・研究で生じるデータのライフサイクルを円滑に進めるための活動です。研究の立案から終了までを通してどのようなデータを利用・取得・生成するか、またこれらのデータをどのように解析・保存・共有・公開するかを明確にし、これを実施することを指します。

実施においては、研究データのライフサイクルにそって管理計画(Data Managemet Plan, DMP)の作成に始まり、データの公開・再利用まで、適切な管理が期待されます。



なぜ今、研究データ管理が求められるのか

研究データ管理が重視される理由には複数の背景があります。

- ・情報通信技術の発展に伴い大量のデータが生み出され、ネットワーク上の利活用が広がっています。
- ・オープンサイエンス等、研究成果をオープンにして学術研究を活性化する世界的な潮流が進んでいます。
- ・学術論文の根拠となるデータ、およびその長期保存が求められています。
京都大学の研究者は「発表された研究成果の根拠となる研究資料等(文書、数値データ、画像等)」を、「当該論文等の発表後少なくとも10年の間」保存する義務があります。

研究者が日々生じる研究データを適切に管理することで、研究活動の継続性・効率性・公正性を高めることができます。日常的なデータ管理を足場として研究成果を公開・共有することで、さらなる学術研究の展開が期待されます。

京都大学における研究データ管理に関する情報を掲載！

詳しくは rdm.kyoto-u.ac.jp をご覧ください

RDM Drive の利用には申請が必要です

RDM Driveを利用するには、利用代表者による申請手続きが必要です。

申請時に、利用メンバー(利用代表者、プロジェクト管理者、プロジェクトメンバー)を登録します。

利用代表者	京大教職員のみ
プロジェクト管理者	京大教職員のみ
プロジェクトメンバー	京大の教職員および学生、学外共同研究者



利用申請はこちら(「RDM Drive Portalにログイン」ボタンからポータルに遷移した後、ページ上部の「新規申請」をクリック)

<https://portal.rdm.kyoto-u.ac.jp/>



RDM Drive 説明資料・動画

第2回研究データ管理・公開セミナー
「研究データの収集・共有・公開」
(2025年6月13日開催) ※京都大学構成員限定
<https://kubar.rd.iimc.kyoto-u.ac.jp/rdm-seminar02/>



RDM Drive サービス紹介ページ

情報環境機構 WEB サイト
<https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/services/storage/rdmdrive>

RDM Driveについてもっと知りたい方はこちらをご覧ください

研究データの管理で困っていませんか？

研究室にある
ファイルサーバの
運用が面倒

学外研究者と
一緒に使える
適切なストレージ
がない

学外の
サーバだと
不安/遅い

そんなあなたに **RDM Drive** をお勧めします！

RDM Drive は
大学が提供する
クラウド
ストレージです

オープンソースソフトを利用して
サービス提供します。

RDM Drive なら
学外研究者も
メンバー登録が
可能です

学外研究者との
データ共有に便利です。

RDM Drive は
学内に
データサーバを
設置しています

高速通信が可能です。
トラブルも学内で対応致します。

京都大学における研究データ管理・共有のスタンダードへ



KYOTO UNIVERSITY

RDM Drive

サービス担当 | 情報環境機構 データ運用支援基盤センター ストレージサービスグループ

お問い合わせ

情報環境機構ウェブサイトのお問い合わせフォームからお寄せください

<https://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/ja/inquiry?q=ホスティングサービス>



京都大学 情報環境機構
データ運用支援基盤センター
coda iimc Center for Open Science and Data Management